あまねく

amaneku 2024 vol.14

同志社大学 スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室

はじめに

「あまねく」第14号発刊によせて

スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室長
荒渡　良

いまから70年以上も昔の1949年、同志社大学は日本で初めて点字で大学入試を実施しました。その後、身体の障がいを対象に物理的（バリアフリー化など）、人的（学生支援のコーディネーターやボランティアスタッフの登用など）な支援を広げ、2000年からは「障がい学生支援制度」として全学的な支援体制を構築しています。この広報誌「あまねく」の巻末には、本学の障がい学生支援の歩みが詳しく記載されています。毎年毎年、たゆまぬ進化を続けてきた支援の姿をぜひご覧いただければと思います。

さて、この歴史ある同志社大学の障がい学生支援ですが、近年は大きく変わろうとしています。まず身体の障がいに加えて、精神・発達の障がいも支援の対象となりました。そして2021年の障害者差別解消法の改正です。この法律では私立大学においても「学生の学ぶ権利を保障し、その特性に合わせて合理的配慮を行う」ことが義務付けられます。これは本学らしく言い換えると「自主自立を目指すすべての学生に、等しくあまねく学びの機会をわたらせるための配慮を行うこと」となるでしょうか。この配慮を受けることは、学生の権利でもあるのです。そして教育の現場では、学びの質を確保しつつ、障がいのある各学生の特性に合わせて、どのように合理的に配慮内容を策定するかが重要になります。もちろん、この合理的配慮は学生や履修科目の特性によっても異なることでしょう。本学のステューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室（SDA室）は奇しくもこの法改正とほぼ同時に発足しましたが、その主たる業務の一つは、この合理的配慮に関することです。具体的に配慮提案作成にかかわるとともに、学内で合理的配慮に関する理解を深める機会の提供も行っています。発足して3年を経過したSDA室ですが、これからも各学部、組織の皆様と協働で業務を進めてまいります。ご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

変化の二点目は、コロナの時代における障がい者支援のあり方です。コロナ下では完全にオンラインであった障がい学生支援も、2022年度からは遠隔授業・面接授業となり、各種の対面行事が再開されました。オンラインと対面の両手法を生かした複合的なサポートをどのように有機的に展開するか、SDA室ではスタッフの皆さんとともに新たな支援のあり方を俯瞰的に考え、発展させていきたいと考えています。

そしていま、世界では「多様性（Diversity）」を尊重する時代を迎えています。この「多様性」には国籍、性別、性的指向･性自認、文化、宗教、といった様々な概念が含まれます。同志社大学において、同じ志を持つ多様な人々が、すべからく、あまねく「個」を発揮できるキャンパスを実現することも、SDA室の使命の一つです。

このような背景のもと、広報誌「あまねく」が、本学における障がい学生支援の理念と取り組みを知っていただき、多様な人々の共生と発展を目指す社会の実現を願うすべての方々を繋げるための、新たな標となれば幸いです。

目　　次

はじめに「あまねく」第 14 号発刊によせて …… 01

＜大学内行事開催状況＞ …… 03

03　2023 年度 入学式手話通訳 /2023 年度 入学式パソコン（PC）通訳 / 春学期始め顔合わせ会 / オリエンテーション

04　スタッフ募集説明会 / 春学期サポートスキル勉強会 / 春学期ランチタイム手話

05　ZOOM 交流会 / あおぞら手話 / オープンキャンパス

06　春学期末全体懇談会 / 第 19 回 Challenged キャンプ / 秋学期ランチタイム手話

07・08　同志社大学　キャンパス内の「バリアフリー調査」

09　ガイドヘルプおよび車いす介助の講習会 / SDA 室オリジナル指文字表作成

10　身体障がい体験講習会 / 秋学期サポートスキル勉強会

11　NHK 字幕モニター意見交換会 / 秋学期末全体懇談会

12　複合領域科目「ダイバーシティ社会における障がい学生支援を考える ーアクセシビリティ支援の理論と実践ー」/ 京セラ株式会社開発字幕表示システム「Cotopat」導入 /2023 年度 卒業式 PC 通訳

＜社会貢献事業＞ …… 13

13　大学コンソーシアム京都「ノート・パソコン（PC）テイカー養成講座」 聞くことに困り感がある学生への支援アプリや支援機器の活用について / パラスポーツ振興事業　第 31 回パラアーティスティックスイミングフェスティバル / 第 19 回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム 第 19 回京都手話フェスティバル

＜ SOGI に関する取り組みについて＞ …… 14

14　同志社レインボー映画祭 / 同志社レインボーセミナー

15　性の多様性に関する調査

＜スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室について＞ …… 16

＜同志社大学における障がい学生支援の沿革＞ …… 17

（表紙写真：同志社大学提供）

大学内行事開催状況

●2023年度　入学式手話通訳

開催日・場所：４月１日（土）　京田辺校地　デイヴィス記念館

協力スタッフ：２名

●2023年度　入学式パソコン（PC）通訳

開催日・場所：４月１日（土）　京田辺校地　デイヴィス記念館
協力スタッフ：４名

【PC 通訳スタッフの声】

武田　駿（理工学部化学システム創成工学科　２年次生 / サポートスタッフ）

私がこの PC 通訳に応募した理由は、今回のサポートで少しでも力になれたら良いなと思ったからです。また私自身、去年は右も左も分からない状態だったので入学式がどのように行われているのかを知りたかったからです。実際に活動をして、他のメンバーと協力することがすごく楽しく、障がい者だけではなく健常者の皆さんもスクリーンに映る文字を自然に見ているのを見て、私たちの活動がたくさんの方に役に立っていると感じ、本当にうれしかったです。

この活動の醍醐味は、支援を受ける側、する側両方に得るものがあることです。支援を受ける側は私たちの活動で円滑に学校生活を送れるようになるし、する側は障がい者支援の現実を知り、その世界に対する見識を深めることができます。さらに PC 通訳に関しては、タイピングの技術も得ることができます。このように、サポート活動をすることによって全員が何かしら得ることができるのです。それが、このサポート活動の一番素晴らしいところです。

●春学期始め顔合わせ会

開催日・場所：３月 29 日（水）　両校地　オンライン開催
参　加　者　数：36 名

●オリエンテーション

開催期間・場所：４月４日（火）～６日（木）
今出川校地　良心館　サンクンモール
京田辺校地　ラーネッド記念図書館前
協 力 ス タ ッ フ：８名

【スタッフの声】

藤田　萌々子（文学研究科　博士後期課程 / サポートスタッフ）

青空の下で SDA 室の魅力を語り、新年度の明るいスタートを切ることが出来ました。今出川校地での発表の主軸は「新規スタッフ登録のハードルを下げる」ことでした。しかし、サポート活動は決して簡単に・気軽にできるものだとは言えません。そこで、座談会形式で発表を構成しました。それぞれの体験談を話すだけでなく、お互いの対話を重ねることこそ私たちの普段の姿であり SDA 室の魅力ではないかと考えたからです。支援をする側と受ける側の双方にとって、自身の悩みや思いを言語化することは勇気のいることです。ですが SDA 室には、お互いの思いを丁寧に伝えようとする真摯さと、その思いを全力で受け止めようとするあたたかさが溢れています。

今回の発表も発表者４人でじっくりと意見交換をして作り上げました。それぞれのアイデアを取り込みながら発表を構成する過程は大変楽しいものでした。発表者の皆様、そして全力でサポートしてくださった両校地 SDA 室の皆様、本当にありがとうございました。

松山　漱亮（理工学部機械システム工学科　４年次生 / サポートスタッフ）

私がオリエンテーションスタッフに応募した理由は、開講期間中あまりサポートスタッフとして活動が出来なかったので、このような機会に利用学生や同じサポートスタッフと親睦を深めたいと考えたからです。

SDA 室やオリエンテーション発表者と内容を調整していく中で、障がいのある学生の背景を想定し、自分なりの考えを提示し、より円滑な発表になるよう試みることが出来たと感じます。

レギュラーとして活動する方ももちろん、私のように、頻繁に活動出来ない方でも相互に補い合い成り立っているのがこの SDA 室での活動です。利用学生、サポートスタッフ、SDA 室の職員さん等で支え合い、互いに得るものがあるのがこのスタッフ活動の大きな特徴だと思います。このオリエンテーションを通じて SDA 室の活動に興味を持ち、サポート活動を始めたいと思っていただけたら幸いです。

●スタッフ募集説明会

開催日・場所：4 月 13 日（木）、18 日（火）オンライン開催
5 月 9 日（火）　今出川校地　良心館　103 番教室
5 月 11 日（木）　京田辺校地　知真館　1-128 番教室
協力スタッフ：13 名

【スタッフの声】

稲田　莉子（神学部神学科　3 年次生 / 利用学生）

今回、チームリーダーとしてスタッフ募集説明会に協力させていただきました。私自身、入学当初から利用学生として、SDA 室にお世話になっています。SDA 室に、何か協力できることがないか、恩返し出来ないかと思っていた矢先、こちらのスタッフ募集説明会が開催されることを知り、今回協力スタッフの募集に応募しました。

私は高校時代に長期入院を経験し、退院後、同志社大学に入学したので、当初は著しく体力がなかったり、日々の体調に大きく波があったり、サポートがないと授業を受けることが難しい状態でした。障がい者では無いけれど、健康なわけでもないという、グレーゾーンにいる私のような学生にも、授業が問題なく受けられるようにサポートしてくださいます。スタッフ募集説明会では、障がいや症状に合わせて支援してくださることや、利用学生としての思い、またヘルプマークについてのお話について、お伝えさせていただきました。少しでも SDA 室のこと、またサポートスタッフ、利用学生のことを知ってくださると嬉しいです。

辻　雪月（心理学部心理学科　2 年次生 / サポートスタッフ）

京田辺校地で開催したスタッフ募集説明会では、発表者二人の経験談を交えながらスライドを使って SDA 室の概要やサポート活動について説明しました。当日は想定よりも多くの方にお越しいただき、大勢の前でお話しするのは緊張しました。しかし、私がサポート活動を始めた昨年はまだコロナ禍ということもあり、なかなか対面で SDA 室での活動についてお話しする機会がなかったので、自身の行ってきたサポート活動を改めて振り返るよい機会になりました。今年度は、今まで力不足を感じてしり込みしていたサポート活動も勉強会に参加し力をつけて、ぜひ挑戦してみたいと思います。

このように、誰かをサポートすることで自身のスキルアップにもつながることが SDA 室でのサポート活動の醍醐味かと思います。サポート活動を始める前は「代理タイピング」や「代筆」といった言葉は聞いたことがありませんでしたが、今では実際にその活動をできるようになっていることに驚くとともに自身の成長を感じます。こうしたサポートスタッフ活動の魅力を伝えたいと思い、スタッフ募集説明会でお話しさせていただきました。今回の説明会を通して SDA 室の活動に興味をもっていただけたら非常にうれしく思います。

●春学期サポートスキル勉強会

開催期間・場所：4 月 14 日（金）～ 7 月 18 日（火）　オンライン開催
車いす介助講座のみ対面開催
参　加　者　数：延べ 31 名

●春学期ランチタイム手話

開催期間・場所：4 月～ 7 月　第 2・第 4 水曜日
今出川校地　良心館　318 番教室
京田辺校地　知真館　1-202 番教室
参　加　者　数：約 15 名 / 回
講　師　協　力：5 名（利用学生・学生スタッフ）

開催期間中に昼食をとりながら楽しく手話を学べる場を設けています。ランチタイム手話は、挨拶や自己紹介の仕方・季節などのテーマにそった簡単な会話を通して、手話でコミュニケーションをとることを楽しんでもらう目的で行っています。今回は、春学期に担当された講師スタッフの声を紹介します。

【ランチタイム手話参加者の声】

北元　蘭名（社会学部メディア学科　4 年次生 / サポートスタッフ）

私がランチタイム手話講師として参加をしたのは、SDA 室コーディネーターの方からお声がけいただいたことがきっかけでした。手話については全くの初心者だったため、引き受けた当初は不安な気持ちもありました。しかし、初心者の目線で楽しく学べるテーマについて提案し、本や動画で表現を探したり、他の講師の方に表現を教えていただいたりしたことで、学期の最初から最後まで楽しく勉強しながら取り組むことができました。

また、方言のように地域ならではの表現があることや、英語の「look」と「see」の使い分けのように、状況によって「みる」という表現を使い分けることを知り、言語としての手話の面白さを学ぶことができました。手話を通じてたくさんの学生の方と交流できたことに感謝しています。

ランチタイム手話に参加してくださった皆さんにとって、手話で会話をすることの楽しさを知っていただくきっかけになっていれば幸いです。

●ZOOM交流会

開催日・場所：5 月 31 日（水）両校地　オンライン開催
参　加　者　数：12 名

両校地の利用学生とサポートスタッフがオンライン上で集まり、交流を深める場となりました。参加者の声を紹介します。

【参加者の声】

宮永　七帆（文学部英文学科　1 年次生 / サポートスタッフ）

Zoom 交流会には、サポートを利用している学生やサポートスタッフの皆さんとお話しする良い機会になると思い参加しました。幹事のお二人がミニゲームを企画してくださったおかげで、お互いのことについて知る素敵なきっかけになり、対面と変わらない楽しい時間を過ごさせていただきました。交流会を通して、「利用学生とスタッフ」という立場で事務的にサポートを行うだけではなく、趣味や好きなこと・ものなどを語り合うといった互いの心の距離を縮める対話で、「一人の人」として向き合い理解しあえる関係性を築いていきたいと思いました。

また、交流会では利用学生にも会をより楽しんでもらえるよう、字幕や文字起こし等の配慮や工夫が随所でなされていました。スタッフとして、サポート活動以外でも常に「誰もが不都合無く快適に生活できるように」という点を心掛け、自分の行動について改めて考え直すきっかけにもなりました。今後もこのような交流の場があれば、是非参加させていただきたいです。ありがとうございました。

●あおぞら手話

開催日時・場所：7 月 19 日（水）
今出川校地　良心館　サンクンモール
京田辺校地　多目的ホール南側エリア
参　加　者　数：約 17 名
講　師　協　力：2 名（利用学生・学生スタッフ）

●オープンキャンパス

開催日・場所：7 月 29 日（土）　京田辺校地　恵道館　他
協力スタッフ：1 名

2023 年度のオープンキャンパスは、7 月下旬に京田辺校地で、8 月上旬に今出川校地で開催されました。今回は京田辺校地でガイドヘルプの活動をしたスタッフの声を紹介します。

【スタッフの声】

槙本　夢（グローバル･コミュニケーション学部　4 年次生 / サポートスタッフ）

7 月 29 日の土曜日、オープンキャンパスに来られた視覚障がいのある方に付き添い、キャンパスを案内しました。応募理由は、ガイドヘルプを通して、自分ができることを増やしたいと考えたからです。

最初、合流するまでは、どのような方なのか、上手くコミュニケーションが取れるのか少し不安でした。しかし私は、「せっかく遠くから来てくれたのだから、ちゃんと同志社を知ってもらおう」と考え、説明会の内容をメモして渡したり、ご本人・同伴の方から要望を聞いて追加で案内をしたり、できる限りの支援をしました。

また、SDA 室の方と積極的にコミュニケーションをとり、不明点はすぐに解消するよう心掛けました。最終的には、お二人や SDA 室の方々に大変喜んでいただき、サポート活動ができてよかったと心から嬉しくなりました。

サポートは技術的な面だけではなく、気持ちの面も重要だと思っています。これからも活動を通じて、目の前の相手を思いやる気持ちを育んでいきたいです。

●春学期末全体懇談会

開催日・場所：８月８日（火）
今出川校地　尋真館　40 番教室
参　加　者　数：47 名（学生 33 名、教職員 14 名）

●第19回Challengedキャンプ

開催期間・場所：８月 29 日（火）～８月 31 日（木）　大阪市立長居ユースホステル
参　加　者　数：19 名（学生 12 名、教職員７名）

SDA 室では、参加学生が２泊３日の間さまざまな障がい体験をすることで、普段の生活では気づかないバリアに気づき、対話と交流をとおしてお互いの心の中にあるバリアと向き合うことを企図し Challenged キャンプを催行しています。

第 19 回の Challenged キャンプは、８月 29 日～ 31 日に大阪市立長居ユースホステルで実施し、12 名の学生が参加してくれました。蝉の声　太陽の光　葉を揺らす風・・・「五感を研ぎ澄ませて感じよう」をテーマに障がいのある学生と参加者でグループとなり大阪の街へ繰り出しました。自由な中にあるつらさや大変さ・普段意識をしていない感覚に目を向け感じた３日間を過ごしました。研ぎ澄まされた感覚を通じて、体験から得た成果がそれぞれの未来につながることを期待しています。

【参加学生の声】

政策学部　４年次生 / 利用学生

私は、障がい体験の中で経験するバリアをどの程度自分自身の能力で対処できるのか試したいという挑戦心と、その体験を通じて新たな気づきを得たいという気持ち、また「障がい」とは何かということへの探究心から参加しました。

３日間の障がい体験では、日常生活に存在する障壁によって支援の難しさや自由に自分の意思で動けないことによるもどかしさや疎外感など「障がい」に伴う不自由を実感することができました。

しかし、一方でこれらの障壁や不自由な部分を体感することにより、実際に行動を起こす人が増えることで除去に繋がるという気づきもありました。

実際に、長時間体験したからこそ気づいた「日常生活に潜む些細な障壁」を感じ取る広い視野と、知識をこのキャンプで得ることができました。

今後も、自分の生活圏にある障壁に気づくとともに、それらを除去するための行動を率先して行うことができる人間でありたいと思いました。

文学部　２年次生 / サポートスタッフ

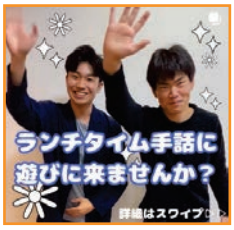
私が Challenged キャンプに参加したのは、元々サポートスタッフとして１年生の頃から SDA 室で活動しており、キャンプ開催の知らせを受けたことがきっかけです。実際に障がい体験を行うことで、今後のサポートスタッフとしての活動や、それ以外で障がいのある方と関わる機会があった際に、より相手方に寄り添った支援や接し方ができるようになりたいと思い参加を決意しました。

キャンプを通して、街中での障がい体験が最も印象に残っています。この体験を通して、障がい者にとっての日常における不便な状況や場所などについて多くの気付きを得ることができ、実際に障がいのある方々の目線に立って物事を考える機会になりました。

エレベーターのボタンを代わりに押すなどの些細な行動でも、障がいがある方々にとっては、より生きやすく過ごすためのサポートになるということに気付きました。そのことから、今後障がいがある方々を街中で見かけた際に、自分にできる気遣いを見つけて自然に行動に移せるようになりたいと思いました。

●秋学期ランチタイム手話

開催期間・場所：９月～１月　第２・第４水曜日
今出川校地　良心館　サンクンモール横地下ラウンジ
明徳館　地下ラウンジ
京田辺校地　多目的ホール南側エリア
参　加　者　数：約 20 名 / 回
講　師　協　力：７名（利用学生・学生スタッフ）

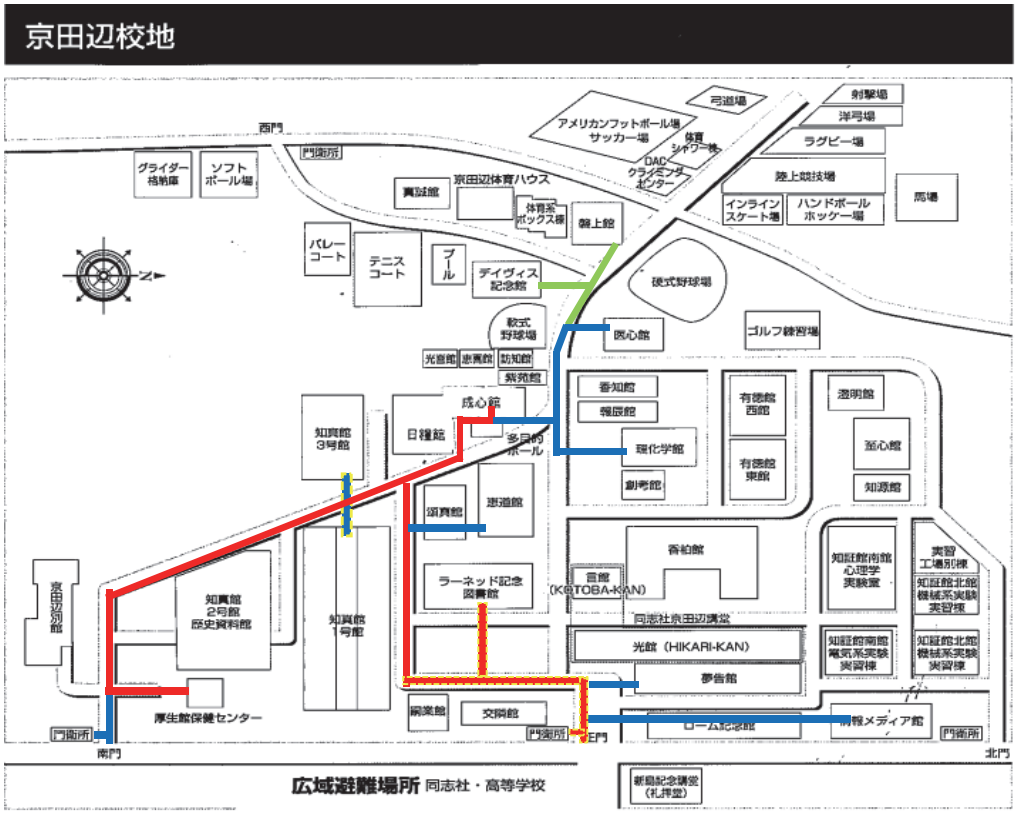


●同志社大学　キャンパス内の「バリアフリー調査」

実施期間：8 月～ 2024 年 3 月
協力者数：延べ 52 名（学生・職員）

両校地キャンパス内の施設･設備におけるアクセシビリティの状況を把握するため､バリアフリー調査を実施しました。実際に車いすに乗って、教室内の導線調査･スロープの有無･車いすスペースの確認や、キャンパス内の勾配･段差など危険な場所がないか、また、点字タイルの修繕箇所･敷設が必要な箇所 についても確認しました。

京田辺校地　点字ブロック敷設必要箇所



：優先順位1
：優先順位2
：優先順位3
：現在敷設済

両校地キャンパス内を調査し、データ化した一部をご紹介します。

【京田辺校地】バリアフリー動線調査

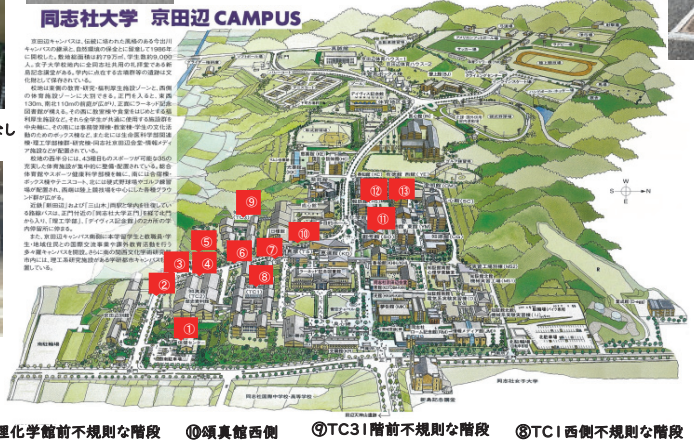
①保健センター入口
ギリギリ車いすで入館可

②保健センター前
サポーターなしの移動は
歩道溝蓋がなく危険

③TC2西側
正門に続く歩道の溝蓋がなく
サポーターなしの移動は危険

④TC2西側通路
街路樹蓋がもりあがり
サポーターなしの移動は危険

⑤TC2西側通路
歩道街路樹伐採のため
サポーターなしの移動は危険



⑥TC1西側出入口 3cm程度の段差あり

⑦TC2とTC3の通路
5cm程度の段差あり

⑧TC1西側不規則な階段
サポーターなしの移動は危険

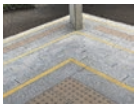
⑨TC3 1階前不規則な階段
サポーターなしの移動は危険

⑩頌真館西側
8cm程度の段差あり

↓拡大

⑪理化学館前不規則な階段
サポーターなしの移動は危険

↓上から見た階段



⑫香知館前不規則な階段
サポーターなしの移動は危険

↓上から見た階段

⑬香知館不規則な階段点字タイルなし
サポーターなしの移動は危険

京田辺校地 点字ブロック敷設必要箇所

【調査協力スタッフへのインタビュー】

Q：バリアフリー調査を実際にやってみてどうでしたか？
→自分としては、バリアフリーという視点からキャンパスを見ることがなかったので、そこが興味深かったです。キャンパスには、気付きにくい段差があり、そうしたことも確認できる機会となりました。

Q：どのようなところが気になりましたか？
→例えば、ここは車いすだと通りにくいなと思ったり、車いすで通ることができても、そこから動けないつくりの場所がありました。

Q：新しい建物との違いはありましたか？
→新しい建物は、さすがに整備されていました。動線のスペースがかなり広く、回転するのにも充分な広さがありました。

今回の調査から、車いすユーザーが授業を受けるには、動線だけでなく、扉の形態や幅を下見しないといけないということがわかりました。
また、建物に入った後エレベーターやスロープなど、ハード面が整備されていても休み時間にエレベーターに乗れないという声があります。車いすユーザーにとって、エレベーターの混雑問題は、どうすれば解決できるのか、自分がエレベーターに乗っている側だったら果たして降りるのか、そういったソフト面も課題となる調査でした。

●ガイドヘルプおよび車いす介助の講習会

開催日・場所：9 月 19 日（火）　今出川校地　寒梅館ハーディホール
参　加　者　数：15 名

今出川校地寒梅館でガイドヘルプ講習会を実施しました。寒梅館地下にあるハーディホールやクローバーホールでは、学生支援センターはじめ学生団体がさまざまな催しをしています。車いすユーザーや視覚に障がいのある来場者に、気持ちよく楽しんでいただけるよう、ホールの運営補助をする学生アルバイトやホールを利用する学生団体対象に、講習会を行いました。参加した学生の声を紹介します。

【参加学生の声】

今回のガイドヘルプ講習会では、目の不自由な人や車いすに乗って来場される方に対しての誘導の仕方やどのように声かけをすれば良いのかを学ぶ機会となりました。特に目の不自由な方にとっては、段差のある場所や物がある場所がかなり危険であるため、誘導する際には細心の注意を払う必要があるということを身をもって実感しました。今回のガイドヘルプ講習会で得た経験を活かすことができればいいなと思います。

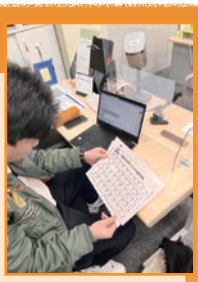
今年の夏にハーディホールで演奏会を開催させていただきましたが、その際には合理的配慮や緊急時の対応といった視点が抜けており、結果、車いすで来られたお客様の動線がわからず誘導に戸惑うということになってしまいました。もしも、これに加えて火事や地震が起こっていたらと考えると、とても恐ろしいです。冬にもハーディホールで演奏会を行わせていただく予定なので、今回の経験を活かし、外部からお手伝いに来てくれる受付担当者とも情報を共有し、すべてのお客様に対し、すべての状況においてきちんと誠意を持って対応できるようにしたいです。

アイマスクを使った視覚障がい体験は、これまで何度も入ったことのある寒梅館という場所で行われましたが、アイマスクを着用して視界を完全にシャットダウンされた状態だと、「知っている場所」でも「とても恐怖を感じる場所」になるんだと実感しました。普通の速さで誘導してもらっても、視界がシャットダウンされた側はとても速くて怖いと感じるので、誘導するときはゆっくり歩かなければならないというのも新しい発見でした。また、何気なく階段についている手すりが命綱といっても過言ではないくらいの存在であることにも気付かされました。

●SDA室オリジナル指文字表作成

手話の学びをさらに深められたらという想いから、手話ユーザーの学生とサポートスタッフ 6 名の学生を中心に SDA 室オリジナルの指文字表を、作成しました。作成に携わってくれたサポートスタッフの声を紹介します。

【スタッフの声】



柏木　裕美子
（文化情報学部文化情報学科　1 年次生）

指文字とは、日本語の五十音に対応する手話です。私は昨年度から手話を学習し始め、同時に SDA 室にも登録しました。手話を学習していく中で伝わること、分かることの楽しさを知り、どんどんのめり込んでいきました。手話は日本語とは異なる文法体系を持ち、考えや気持ちを視覚的に表す言語です。そんな手話ですが、私が初めに覚えたのは今回の「指文字」です。初めの頃は分からない単語は全て指文字で表現していました。勿論その様な使用方法だけでなく、通訳や日常会話等の場面でも固有名詞や新しい単語などを表す際に指文字はよく使用されます。そのため指文字は手話の基本であると言えるかもしれません。

今回はそのような手話の入口に携われる機会をいただき、とても嬉しかったです。本表の制作にあたり、他のスタッフの皆さんと話し合い、いかに分かりやすく適当な表現になるかと試行を繰り返しました。結果、分かりやすく学習しやすい指文字表に仕上がったと思います。手話に興味を持った皆さんが第一歩を踏み出す、その入口になれれば幸いです。

【指文字（ゆびもじ）とは】

指を使って五十音を表すものです。手話で表現できない固有名詞等の言葉を表す時に使います。

●身体障がい体験講習会

開催日・場所：10 月 17 日（火）～ 19 日（木）　京田辺校地　多目的ホール
　　10 月 24 日（火）～ 26 日（木）　今出川校地　良心館　サンクンモール横地下ラウンジ
協力スタッフ：19 名
参　加　者：306 名

両校地で教職員・学生を対象に、障がい学生への支援に関する理解促進を目的として、身体障がい体験講習会を開催しました。2 日間の視覚障がい体験と、1 日間の上肢・下肢障がい体験を両校地で実施し、306 名の参加がありました。視覚障がい体験プログラムでは、大学内を体験者と介助者がペアとなり白杖を持って移動し、アイマスクをしながらおにぎりを食べる・お茶を飲むといった、見えないことによる難しさや怖さ、移動介助の難しさ等、体験を通して様々な社会的障壁に気づく時間となりました。上肢・下肢障がい体験では、鯉の餌やりなど車いすからの視点、少しの傾斜や段差の怖さなど大学内での移動を通して体感したり、利き手を使用せずにお箸でおにぎりを食べる・お茶を飲む体験を準備しました。

【参加者の声】＜参加後の自由記述アンケートの一部を紹介します＞

「おにぎりを食べるという簡単なことなのに、難しく感じるという、ささいなことにもバリアがあると感じられました。」

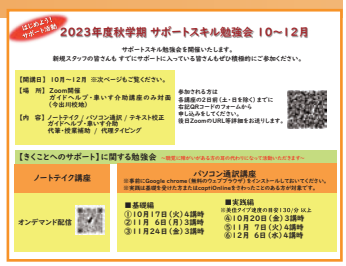
「見えないことの大変さを身をもって理解できた。体験でしか得られない知見があった。
実際に体験したからこそ、何が大変かを感じることができました。すごく良い体験になりました。」

「普段、バリアについて考えることがあまりないので、これを機に大学や町中の障がいについて考えてみようと思いました。他にも色々な企画をやってくださっているそうなので、参加してみたいです。ありがとうございました！」

「ふだん何気なく歩いている地面でも、わずかな高低などが振動として伝わってくるのに驚きました。車いすを押す人との信頼関係が大切だと思いました。利き腕を使わないだけでこれだけ不便だという点をあらためて感じました。」

●秋学期サポートスキル勉強会

開催期間・場所：10 月 13 日（金）～ 12 月 7 日（木）　オンライン開催
　　ガイドヘルプ・車いす介助講座のみ対面開催
参　加　者　数：延べ 15 名



SDA 室では、障がい学生支援に関する様々なサポートについてスタッフのスキルアップを図るため、毎年春・秋にサポートスキル勉強会を開催しています。

聴覚に障がいのある学生へのサポートとして PC 通訳講座や、視覚や肢体に障がいのある学生が安全に移動できるようサポートするためのガイドヘルプ・車いす介助講座など、様々な講座があります。現在レギュラースタッフとして活動してくれているスタッフのほとんどが、勉強会への参加から活動をスタートしています。

ここでは、PC 通訳勉強会に参加してくれたスタッフの声を紹介します。

【勉強会参加学生の声】

永井　真生子（経済学部経済学科 /3 年次生 / サポートスタッフ）

私は PC 通訳ソフトを使った PC 通訳基礎講座に参加しました。講座を受ける前から PC 通訳には興味がありましたが、「難しくて自分には出来ないのではないか」という気持ちも持っていました。そこで、まずは一度勉強会で体験してみようという思いで参加を決めました。

講座は 2 種類に分かれており、基本操作を学んだうえで、実際に人が話している音声に合わせて連係入力を練習しました。参加してみたことで、実際に PC 通訳を行うイメージを掴めたことが良かったと思います。

また、自分に不足しているスキルが何なのか、どのようにしてスキルを磨いていけばよいかも理解できました。

勉強会参加後には臨時活動を経験し、さらに現在レギュラースタッフとして活動させていただいています。勉強会からステップアップしていけたことで、安心して実際のサポートに臨むことができました。「PC 通訳は難しい」という思い込みで終わらせず、勉強会に参加してよかったと思います。

●NHK字幕モニター意見交換会

開催日・場所：2024 年 1 月 27 日（土）　今出川校地　志高館　110 番教室
参　加　者　数：7 名（教職員含む）

聴覚障がい者、字幕制作会社、放送局などの関係者が一堂に会し、議論を通して相互理解を深めつつ、解決の糸口を見つけ、字幕放送の品質向上に資する意見交換の場として開催されました。

●秋学期末全体懇談会

開催日・場所：2024 年 2 月 7 日（水）　今出川校地　至誠館　32 番教室
参　加　者　数：41 名（教職員、オンライン参加含む）

秋学期末懇談会は、今出川校地での対面会場をメインとし、オンラインでも参加可能なハイブリッド形式で開催しました。

利用学生による「話題提供」として、自身の障がいや実体験を参加者に向けて話す場を設け、卒業を目前とした利用学生に 4 年間の学生生活を振り返り、授業サポートを受ける中での気付き、自身でもスタッフとして行動した活動の背景などを話していただきました。参加者も真剣に耳を傾ける姿が印象的でした。プログラムの後半では、「話題提供」であがったテーマを含め参加者同士で秋学期間のサポートを振り返り、意見交換を目的としたグループディスカッションを実施しました。

日頃より配慮を必要とする利用学生や、サポート活動を行うスタッフから活動例を挙げていただき、今後に向けて困り感や課題などを双方に話し合ってもらいました。

【話題提供をしてくれた利用学生の声】

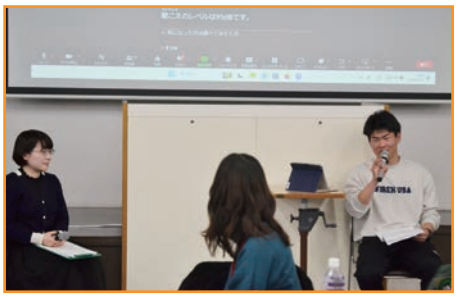
政策学部　4 年次生 / 利用学生

今回の懇談会で自身の経験を話す機会を設けていただき感謝しています。かつてないほど深い内容ではありましたが、これをきっかけに、利用学生・サポートスタッフの双方が今まで言い出せなかった悩みやニーズを打ち明けられるようになれば嬉しく思います。私自身、「知ること」によって周りの人からたくさんの良い変化をもたらす可能性を感じました。未曾有のコロナ禍で授業における通訳方法の大幅な変更や試行錯誤の期間もありましたが、臨機応変に対応していただいたサポートスタッフの皆さんのおかげで十分な情報保障を受けることができました。本当にありがとうございました。4 月からはまた新しい環境で新生活をスタートさせることになりますが、大学時代の経験を活かしつつも、気持ちを新たにして精進できればと思います。

【参加学生の声】

文学部　2 年次生 / サポートスタッフ

SDA 室で中心的に活動されていた先輩の実体験を伺ったことで、本校における障がい学生支援の充実度を再確認したと同時に、周りの理解が未だ充分ではないと感じました。その理由として、授業の情報保障に技術的なサポートはもちろん大切ですが、学生が充実した学生生活に必要なのは授業の質だけではなく、周囲の理解が欠かせないと考えるためです。障がいがあるから特別という考え方ではなく、同じ学生の一人なのだということに気付いてもらうために、私自身、今後も SDA 室の活動などを通して情報を発信しなければならないと思いました。また、グループディスカッションでは、異なる学年の利用学生やサポートスタッフと交流することで、それぞれの視点から貴重な意見を聞くことができる良い機会となりました。



●複合領域科目
「ダイバーシティ社会における障がい学生支援を考える－アクセシビリティ支援の理論と実践－」

開講期間・場所：9 月 25 日（月）～ 2024 年 1 月 29 日（月）今出川校地　至誠館　4 番教室

同志社大学における障がい者との関わりは、新島襄の志に共感して同志社英学校設立に貢献した山本覚馬（全盲と肢体不自由の重複障がい）に遡ります。その後も、新島の「人一人ハ大切ナリ」の言葉を体現するべく、ヘレンケラーの来学や全国初の点字入試実施など、連綿とその理念が受け継がれてきました。

2000 年に発足した「障がい学生支援制度」の「支援をする／支援を受ける」という枠組みの中で、学生同士が互いに切磋琢磨して、「もれなくすべての学生に学びの機会をわたらせること」を目指してきました。そして、2016 年、障害者差別解消法が施行され、「もれなくすべての学生に学びの機会をわたらせること」は、もはや「目指すべきこと」ではなく、組織の責務としての「学びの権利保障（アクセシビリティの保障）」へと転換しました。

本講では、このような本学のあゆみと社会的背景を踏まえ、障がい者 / 学生自身、およびそれを取り巻く人と環境を「ダイバーシティ（多様性）」の視点で包括的に捉え、「組織の責務としての学びの権利保障」と、「教育機関として担うべき支援のあり方」について受講生同士が考察する機会として、SDA 室長が科目代表として開講した科目です。

授業内容		内　　容
	1	ガイダンス／本学のあゆみ
	2	障がいとは何か／合理的配慮とは何か
	3	障がい者の権利保障と法整備
	4	日本の高等教育機関における障がい学生支援
	5	障がい者スポーツにおける「障がい」を考える
	6	合理的配慮を考える①：聴覚障がい体験と支援
	7	合理的配慮を考える②：視覚障がい体験と支援
	8	合理的配慮を考える③：肢体不自由体験と支援
	9	合理的配慮を考える④：精神障がい学生への支援
	10	合理的配慮を考える⑤：発達障がい学生への支援
	11	特別支援教育と合理的配慮
	12	社会における支援事例
	13	企業における支援事例
	14	障がい学生支援の経験から
	15	授業内評価・ふりかえり

本科目は、大学コンソーシアム京都の単位互換科目として大学コンソーシアム京都に加盟している約 50 大学に開講している開かれた同志社大学の科目です。個別の大学では議論できない、各々の大学の理念や設置状況、文化を交えたディスカッションが繰り広げられました。他大学生が同志社大学のキャンパスで毎週授業を受けるのも魅力の一つとなっています。

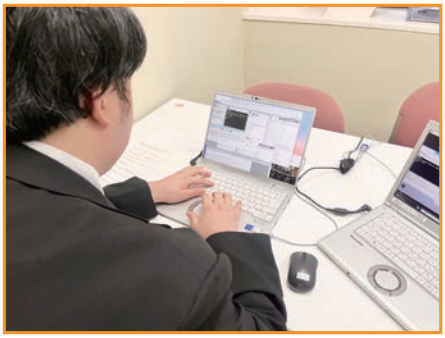
●京セラ株式会社開発字幕表示システム「Cotopat」導入

本学は、2021 年にダイバーシティ推進宣言を発表し、男女共同参画・ライフサポート、多文化共生・国際理解、障がい者支援、SOGI 理解・啓発、の 4 つを中心課題としたダイバーシティに関わる取組を推進しています。

障がい者支援においては、障害者雇用促進法および障害者差別解消法に基づき、聴覚に障がいのある教職員や学生に対する合理的配慮として、手話通訳やＰＣ通訳等を行っています。現在、支援技術（Assistive Technology）機器による情報保障も含めた制度設計を視野に入れており、このたび京セラ株式会社が開発した字幕表示システム「Cotopat」を今出川、京田辺両校地のＳＤＡ室において導入設置しました。

●2023年度　卒業式PC通訳

開催日・場所：2024 年 3 月 20 日（水・祝）
今出川校地　同志社女子大学内　栄光館（遠隔サポート）
協力スタッフ：2 名



社 会 貢 献 事 業

●大学コンソーシアム京都「ノート・パソコン（PC）テイカー養成講座」聞くことに困り感がある学生への支援アプリや支援機器の活用について

開催日・場所：8 月 25 日（金）　キャンパスプラザ京都
内　　容：講話
講　　師：1 名（コーディネーター）

●パラスポーツ振興事業 第31回パラアーティスティックスイミングフェスティバル

開催日・場所：10 月 1 日（日）　京都市障害者スポーツセンター
内　　容：PC 通訳
協力スタッフ：3 名

【参加学生の声】

伊藤　優羽（商学部商学科　2 年次生 / サポートスタッフ）

1 年生の頃から PC 通訳を始め、大学内の授業でのサポートは数回していたのですが、イベントでの活動は、今回が初めてでした。私の担当は、前ロールという機能を使って台本通りに読まれたところを表示するというもので、台本にない部分は先輩方に対応いただきました。

普段とは違い、サポートする相手が、面識のない大勢の方だったので、『失敗してはならない』という緊張が普段のサポート時以上にありました。しかし、より多くの人の役に立てるかもしれないと思うと、非常にやりがいを感じられました。私の参加したパラアーティスティックスイミングフェスティバルでは、演技をされている方とそれを支えておられる方、他のスタッフの方々など、様々な方と出会え、そもそもこういったイベントがあったのだというのも初めて知れて、大変良い機会でした。イベントによって得られることも違うと思うので、今後もイベントの通訳があれば参加してみたいと思います。

●第19回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

日時・場所：11 月 5 日（日）　つくば国際会議場
内　　容：セミナー登壇
参　加　者：1 名（利用学生）

●第19回京都手話フェスティバル

開催日・場所：2024 年 1 月 28 日（日）　京都新聞文化ホール
内　　容：PC 通訳
協力スタッフ：4 名

京都新聞文化ホールにて「第 19 回京都手話フェスティバル」が開催され、サポートスタッフとして活動している学生が、PC 通訳として参加してくれました。今回は、学外での PC 通訳を初めて経験したサポートスタッフの声を紹介します。

【参加学生の声】

藤田　佑理（心理学部心理学科 4 年次生 / サポートスタッフ）

昨年、数回大学内で PC 通訳の活動をする機会があり、学外でも経験を積みたいと考え「京都手話フェスティバル」の PC 通訳スタッフへ応募をしました。また、オープンプログラムで手話を学んだり、ランチタイム手話の講師を務めたりしていたため、手話フェスティバルの運営を支えられるところにも魅力を感じました。

先輩が中心となって、本番前の打ち合わせや共有をしていただいたため、原稿が変わった時に、連携して対応することができました。広い会場で PC 通訳を行うため、来場者のことを意識して、文字の見やすさや、原稿を上げるタイミングなどを調整することの重要性も理解しました。

今後、学内学外のイベントで PC 通訳をする際には、経験したことを後輩に伝えられるようにしたいと思います。

また、手話フェスティバルを間近で見させていただき、会場の“あたたかさ”を感じました。発表者一人ひとりに拍手や応援が届けられている様子や、会場内で行われている手話でのやりとりと触手話によるコミュニケーションも見ることができました。そのような空間で PC 通訳サポートができ、通訳以外にも学ぶことや感じることがたくさんありました。それらを今後のサポートや手話の学習へ活かしていきたいと思います。

SOGI に関する取り組みについて

ジェンダー・セクシュアリティに関する理解を深めるための広報・啓発イベントとして「同志社レインボー映画祭」「同志社レインボーセミナー」を開催しています。

●同志社レインボー映画祭

開 催 日：6 月 22 日（木）、6 月 27 日（火）、6 月 29 日（木）
　　各日 2 回 計 6 回
場　　所：今出川校地　寒梅館　ハーディーホール（ムーンライト・FREE）、
　　恵道館　201 番教室（ナチュラル・ウーマン）
内　　容：映画鑑賞
参加者数：120 名（教職員含む）

LGBTQ＋をテーマとしたレインボー映画祭は３回目の開催となります。2023 年度は、様々な賞を受けるなど評価の高い海外の作品を選定し、アニメーション映画も含め上映しました。会場には、レインボーフラッグやクロスの設置、また、風船などのデコレーションも施し、プライド月間とされる 6 月という時期に開催を合わせて、「レインボー」というシンボルを使用してメッセージ性を持たせた演出も行いました。

【参加学生の声】

家だとなかなか観られない内容の映画だったので、観られて良かったです。作品について詳しく調べてみたいです。ありがとうございました。今回ナチュラルウーマンを観ることができてよかったです。トランスジェンダーについて知りたい、学びたいと思っていたので。企画して下さりありがとうございました。これからも続けてほしいです。

●同志社レインボーセミナー

開 催 日：6 月 30 日（金）　16：40 ～ 18：40
場　　所：今出川校地ラーニングコモンズ
　　プレゼンテーションコート（対面）＋ Zoom ウェビナー（オンライン）
内　　容：講演と質問会
講　　師：若林佑真さん（同志社大学神学部卒業）
参加者数：43 名（対面学生 17 名、対面教職員
　　14 名、オンライン 12 名）

本学神学部卒業生のご自身がトランスジェンダーであり、現在は、トランスジェンダー俳優、舞台プロデューサーで活躍されている若林佑真氏をお招きし、講演会を開催しました。前半は講演、後半は参加学生との座談会形式で、LGBTQ ＋における「差別」について、性的マイノリティとマジョリティの共生について、学生とともに考える時間となりました。

【参加学生の声】

プレゼンが魅力的で聞き入った。オープンリートランスジェンダーの方から話を聞く機会が無かったので貴重な機会をいただけた。LGBTQ ＋について気軽に話せる人が周りにいないので、今回のセミナーにたくさんの人が参加していることで、どうにかしたい、何か行動をしたいと思っているのは自分だけじゃないんだなと実感することができた。また、若林さんのように LGBTQ ＋の将来を前向きに捉えている方がいると知ることができて、自分ももう少し将来に希望を持てるように考え方を変えたいなと思うことができた。

●性の多様性に関する調査

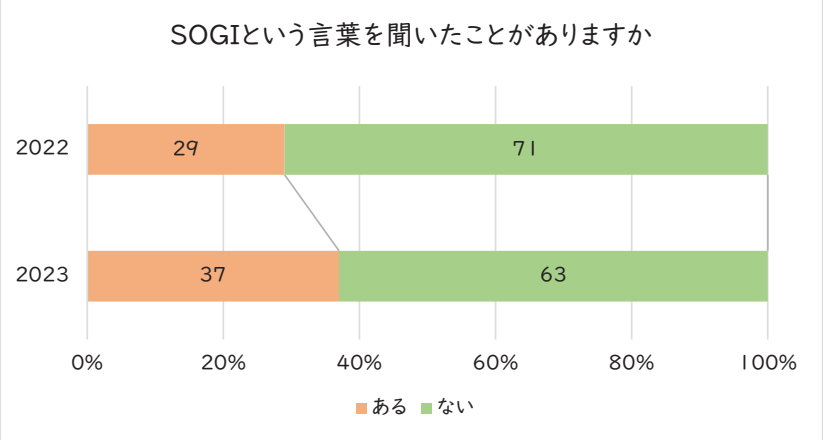
2022 年度より全学部・研究科学生を対象とした意識調査を実施しています。

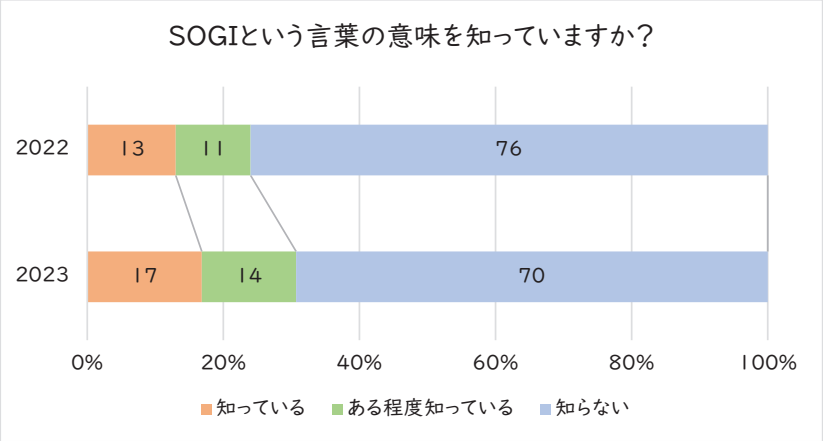
2023 年度は 11 月 17 日より 3 ヵ月間、同志社大学ポータルを利用して実施しました。回答数は前年度比で 142.5% でした。

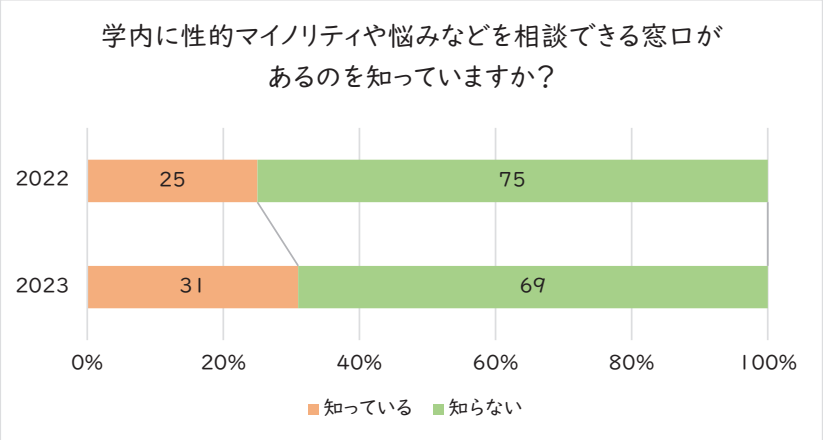
調査結果を見ると、前年度と比べて、「SOGI」「Ally」という言葉の存在や意味を知っている割合が増えており、加えて、SDA 室という相談窓口の存在を知っている学生 SDA 室作成の「性の多様性に関するガイド」を読んだことのある学生割合も増えていました。

今後もこの調査結果を性的マイノリティ当事者の支援の施策を検討、推進する際の参考にしていく予定です。

2023 年度「性の多様性に関する調査」結果
（実施期間：2023 年 11 月 17 日～ 2024 年 2 月 16 日）







● 2023 年度サポートスタッフ登録・活動の状況

登録状況　（単位：人）

2023 年度	サポートスタッフ	学生	一般	合計
春学期（8 月現在）	登録者数	127	21	148
	活動者数(4 月～ 8 月)	60	4	64
秋学期（2 月現在）	登録者数	142	22	164
	活動者数(9 月～ 2 月)	62	5	67

週当たりの派遣コマ数（2023 年度春）　（単位：コマ）

活動内容	両校地
PC 通訳（3 名体制含む）	18
ノートテイク	7
授業補助	13
移動介助（車椅子介助）	22
代筆	9
文字起こし	0
代理タイピング	9
テキスト校正	0
生活支援	0
食事介助	9
座席確保	0
付き添い	0
合計	87

週当たりの派遣コマ数（2023 年度秋）　（単位：コマ）

活動内容	両校地
PC 通訳（遠隔、3 名体制含む）	2
ノートテイク	2
授業補助	12
移動介助（車椅子介助）	18
代筆	7
文字起こし	0
代理タイピング	2
テキスト校正	3
生活支援	0
食事介助	4
座席確保	3
付き添い	0
合計	53

1. 本学における障がい学生支援のあゆみ

同志社大学の障がい者支援は 1949 年に遡る。入学試験において、日本の大学で初めて点字受験の対応を開始した。1975 年、点訳・墨訳担当者を配置し、試験問題の点訳を開始。1982 年には学長の諮問機関として「障害者問題委員会」を設置し、これを契機に今出川校地内建物入口スロープや自動昇降機を設置、1984 年からは語学テキストの点訳業務を開始した。

1986 年、京田辺校地の開校にあたり、キャンパスの基本設計から全面的なバリアフリー化をはかり、図書館内には点字室や対面朗読室を設けた。

2000 年 3 月、「障害者問題委員会」からの学長宛て答申を契機として同年 5 月「障がい学生支援制度」がスタートし、翌 2001 年に同委員会からの再答申により、講義補助から講義保障へと一段と踏み込んだサポートが開始された。この際、一部の支援で、サポートスタッフの活動を有償化した。

2002 年には「障害者問題委員会」を「ノーマライゼーション委員会」と名称変更し、学内の障がい学生の総合的相談窓口を、学生部に一本化、2004 年、今出川・京田辺の両キャンパスに常勤の障がい学生支援コーディネーターを配置し、日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）との連携協力を開始した。

2006 年には日本学生支援機構（JASSO）の「障がい学生就学支援ネットワーク事業」の拠点校として連携協力を開始し、2007 年にはアシスタントスタッフ（有償）とボランティアスタッフ（無償）を統一し、「サポートスタッフ」として全支援を有償化した。

2008 年、「ノーマライゼーション委員会」を発展解消し、「学生主任連絡会議」に整備・再編するとともに、学生支援センター内に「障がい学生支援室」を設置した。

2009 年秋より、事務組織上、障がい学生支援室を京田辺校地学生支援課に一元化した。

2014 年秋に発足した全国高等教育障害学生支援協議会（AHEAD　JAPAN）に発起人校として参加した。

2016 年 4 月の「障害を理由とする差別解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」施行に伴い、2018 年 4 月に障がい学生支援制度の一部見直しを行い、修学支援に関する申請から合理的配慮の決定手続きまでの過程を明確化するとともに、支援内容については学生とその所属学部（大学）が合意をとる形式とした。

2. スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室

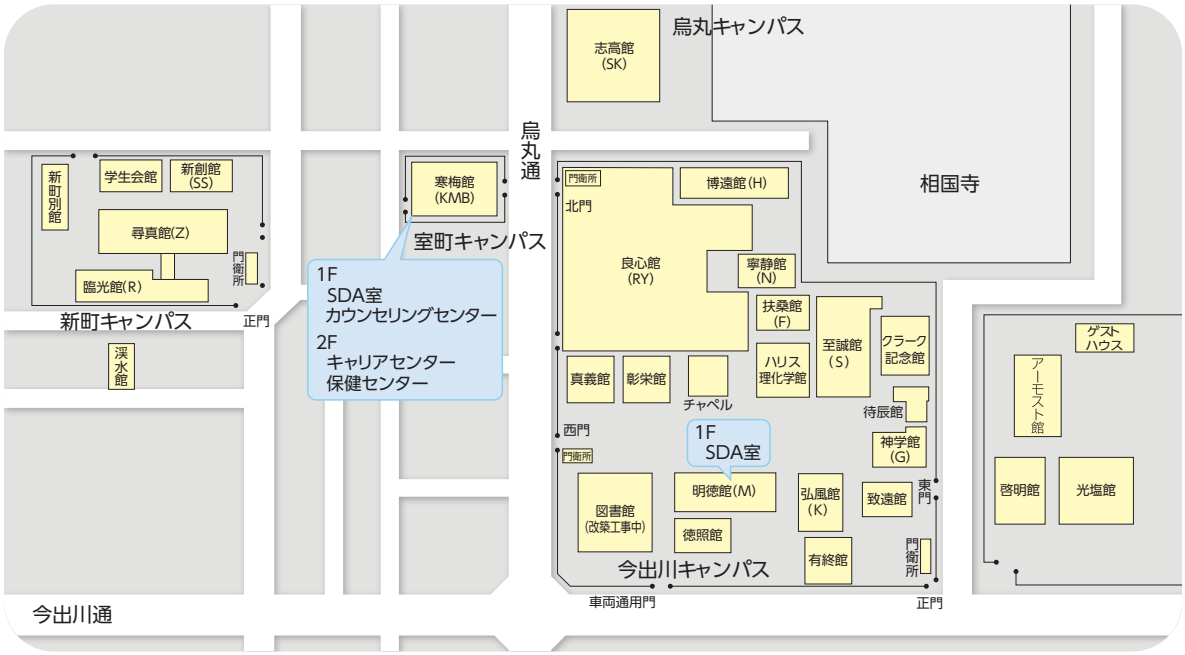
2021 年 4 月、障がい学生支援室が改組され、スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室（SDA 室）が開設された。現在、SDA 室には専属の障がい学生支援コーディネーターが常駐しており、障がいのある学生に対して学生サポートスタッフの協力を得て、授業保障に関わるサポートを行っている（授業保障とは、障がいのある学生が希望するすべての授業について、一般学生と同じレベルで受講できるよう保障することである）。

同志社大学における障がい学生支援の沿革

1937 年	ヘレン・ケラー女史、同志社女子部で講演
1949 年	大学入学試験において点字受験対応を開始（日本の大学では初）
1952 年	同志社大学盲学生友の会（盲友会）結成、盲友会による授業支援開始
1975 年	教務課に非常勤の点訳・墨訳担当者を配置 試験問題の点訳を開始、1984 年度より語学テキストの点訳業務開始
1982 年	大学長の諮問機関として「障害者問題委員会」設置（1982 年 4 月）を契機に、以後順次今出川校地内の建物入口スロープや自動昇降機等を設置
1986 年 4 月	京田辺校地設計にあたりバリアフリー化を企図、図書館内に点字室と対面朗読室を開設
1991 年	視覚障がい者用ワープロ購入と同時に図書館（今出川校地）内に点字室を設置
1992 年 4 月	教務課（今出川校地）に常勤の点訳・墨訳担当者を配置
2000 年 5 月	障害者問題委員会からの学長宛答申（2000 年 3 月）を契機として「障がい学生支援制度」がスタート（予算管理は教務課） ・障がい学生の把握と相談窓口 ・正課授業保障の体系化（教科書点訳は基本的に大学が責任をもつ） ・障がい学生の人的支援制度 （1）「障がい学生支援連絡会」を設置 （2）学生課（京田辺校地）によるボランティア（ノートテイク・パソコン通訳）学生派遣 （3）奨励金制度の導入・懇談会の開催
2001 年 10 月	障害者問題委員会からの学長宛答申（2001 年 8 月）を契機として「講義補助」から「講義保障」へ制度の謳いなおし ・講義保障のために、ボランティアスタッフ（主に視覚障がい学生及び肢体不自由学生へ学生生活支援（無償））に加え、アシスタントスタッフ（聴覚障がい学生への講義通訳（有償））制度を導入
2002 年	予算管理を学生課（京田辺校地）へ移管 「障害者問題委員会」を「ノーマライゼーション委員会」と名称変更
2002 年 1 月	学生課（京田辺校地）に常勤の手話通訳担当者を配置
2003 年	「障害」の「害」について、人を意味するときのみ「障がい」とする旨を決定、採用 大学院生に対しては可能な範囲で補助をする「講義補助」という立場を明確化
2003 年 4 月	入学式・卒業式に手話通訳を導入
2004 年 4 月	両校地に常勤の障がい学生支援コーディネーターを配置 肢体不自由者（電動車イス専用）用トイレ設置
2004 年 5 月	学生部再編により学生支援センターへ名称変更
2004 年 10 月	日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）への連携協力開始
2005 年 3 月	両校地の全ての教室棟扉・トイレに点字シールと対応墨字シール貼付
2005 年 5 月	JR 福知山線脱線事故で受傷した学生に対して「障がい学生特別支援体制」で対応
2005 年 8 月	Challenged キャンプ開始
2005 年 9 月	学際科目（現・複合領域科目）「学びのバリアフリーを考える－障がい学生支援－（聴覚障害への講義保障を通して）」の運営協力を開始
2006 年 10 月	日本学生支援機構（JASSO）の「障害学生修学支援ネットワーク事業」に拠点校として連携協力開始
2007 年 4 月	ボランティアスタッフ（無償）とアシスタントスタッフ（有償）を統一し、「サポートスタッフ」として全支援有償化
2007 年 10 月	障がい学生キャリア支援セミナーをキャリアセンターと協力して開催
2008 年 4 月	「ノーマライゼーション委員会」を発展解消し、「学生主任連絡会議」に整備・再編 障がい学生支援窓口を「障がい学生支援室」として再編
2008 年 10 月	第 4 回 PEPNet-Japan シンポジウム「聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 2008」において Challenged キャンプの発表で PEPNet-Japan 賞を受賞

2009 年 4 月	学生支援機構を設置し、4 つのセンター（学生支援・保健・カウンセリング・キャリア）が連携し、組織的かつ総合的な学生支援体制を構築
2009 年 11 月	「障がい学生支援室」を学生支援センター京田辺校地学生支援課に一元化
2010 年 11 月	第 6 回 PEPNet-Japan シンポジウム「聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 2010」において「心のバリアフリーをめざして」および「Challenged キャンプ」の発表で準 PEPNet-Japan 賞を受賞
2011 年 4 月	日本学生支援機構（JASSO）「平成 22（2010）年度障害学生の教育支援に関する調査研究委託事業」『理工系大学院における聴覚障害学生の支援について』調査報告書発行
2011 年 5 月	PEPNet-Japan 連携協力校として東日本大震災により被災した大学への遠隔情報保障支援を開始
2011 年 9 月	障害学生修学支援ブロック別地域連携シンポジウムを日本学生支援機構と共催
2011 年 10 月	PEPNet-Japan「障害学生支援大学長連絡会議」に開催校として協力
2012 年 12 月	第 8 回 PEPNet-Japan シンポジウム「聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 2012」において「同志社の実り～そだてる・つながる・ひろがる～」の発表で 2 度目の PEPNet-Japan 賞を受賞
2013 年 2 月	同志社大学障がい学生支援に関する指針（ガイドライン）制定
2013 年 4 月	学生支援センター障がい学生支援室を大学事務機構規程に明記
2013 年 6 月	障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）制定
2013 年 12 月	PEPNet-Japan が「平成 25 年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰」において「内閣総理大臣表彰」を受賞
2014 年 4 月	今出川・京田辺両校地フリーアクセスマップ製作
2014 年 10 月	一般社団法人全国高等教育障害学生支援協議会（AHEAD JAPAN）発足［発起校として参加］
2014 年 12 月	2015 年度から「人」を意味するときに加え「人の状態」を表す場合も「障がい」と表記を統一することを決定
2015 年 2 月	同志社大学障がい学生支援に関する指針（ガイドライン）改正
2015 年 6 月	PEPNet-Japan　遠隔情報保障事業モデル校採択
2015 年 11 月	大学生活協同組合におけるインターンシッププログラムを実施
2015 年 12 月	同志社大学障がい学生支援室内規制定
2016 年 4 月	障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）施行
2016 年 6 月	PEPNet-Japan 特別プロジェクトとして熊本地震により被災した大学への遠隔情報保障支援を開始
2017 年 1 月	同志社大学障がい学生支援調整委員会に関する申合せ制定
2017 年 11 月	同志社大学障がい学生支援に関する指針（ガイドライン）改正
2018 年 4 月	障がい学生支援制度を一部変更し、合意内容確認書等を導入
2020 年 5 月	障がい学生支援制度発足 20 周年
2020 年 11 月	第 16 回 PEPNet-Japan シンポジウム「聴覚障害学生支援実践事例コンテスト 2020 特別編」でサポートスタッフが「最優秀作品賞」を受賞
2021 年 2 月	スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室内規制定
2021 年 3 月	ハリス理化学館同志社ギャラリー第 22 回同志社ギャラリー企画展「『支え合う志』をつないで－障がい学生支援制度発足 20 周年－」（2021 年 3 月 19 日～ 5 月 23 日）
2021 年 4 月	改組により「スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室」設置
2021 年 6 月	障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律の一部改正・公布
2021 年 8 月	障がい学生支援制度発足 20 周年記念シンポジウムを開催
2022 年 8 月	3 年振りに Challenged キャンプを宿泊型・対面形式で催行 教職員向け身体障がい体験プログラムを実施
2023 年 12 月	第 19 回 PEPNet-Japan シンポジウム「聴覚障害学生支援に関する川柳コンテスト 2023　教職員部門」でコーディネーターが「最優秀作品賞」を受賞

今出川校地



京田辺校地

同志社大学 学生支援センター
スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室(SDA室)

今出川校地 寒梅館1階
〒602-0023 京都市上京区烏丸通上立売下ル御所八幡町103
Tel: 075-251-3273

今出川校地 明徳館1階
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
Tel: 075-251-3261

京田辺校地 成心館1階
〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1−3
Tel: 0774-65-7411

E-mail: jt-care@mail.doshisha.ac.jp

本パンフレットはユニバーサルデザイン(UD)フォントを使用しております。
ユニバーサルデザイン(UD)フォントとは、より多くの人へ適切に伝えられるよう、ユニバーサルデザインの視点から見やすさ、読みやすさを配慮・確認し、制作されたフォントです。

UD FONT by MORISAWA

2024 年 7 月発行